

第1章 本市の現状

- ・少子化, 高齢化社会の急速な進行を背景に, 人口減少が予測される。
- ・生産年齢人口の減少などにより, 市税を始めとした一般財源の減少が見込まれる。
- ・施設の更新費用の増加が今後予測される

第2章 施設の現状

第3章 施設別の状況

第4章 現状と課題

- ・多くの施設が築後30年を経過し, 老朽化や利用しにくい施設環境になっている。
- ・少子化・高齢化, 人口減少社会を迎え, 施設の維持・更新することが財政的に困難になってきている。
- ・機能が重複していたり, 市民ニーズも多様化し, 求められる機能への対応していく必要がある。

→これからの地域交流施設は,

- ・多くの人が集い, 交流することで住民同士の支えあいや地域のつながりが生まれ,
- ・地域住民が手を取り合うまちづくり活動を支える拠点となるよう, 誰でも気軽に利用できる施設として再整備していく必要がある

第5章 今後のあり方

地域交流施設の再整備(交流館整備)

基本理念 「施設を造る」から「地域を創る」

コンセプト 地域住民の活動を支える身近なまちづくりの拠点づくり

これまで

- ・法律・用途ごとに施設を整備
- ・小学校区に1~3施設配置
- ・施設の老朽化
- ・利用しにくい施設環境 (エレベーター未設置, 多目的トイレ未対応, 段差)
- ・利用の偏り (よく使われる施設とそうでない施設, 特定利用者, 若い世代の利用機会が少ない)
- ・時代のニーズに未対応



集約
・
複合化



これから

- ・地域の身近なまちづくりの核として機能を集約
- ・(仮称)交流館を各小学校区に1施設を基本に整備
- ・ユニバーサルデザインを取り入れた, 誰もが安心・安全に使用することができる施設
- ・多くの人が集い, 交流することで住民同士の支えあいや地域のつながりが生まれる施設
- ・社会環境の変化に柔軟に対応し, 将来を見据えた公共施設サービスの提供
- ・時代のニーズに対応した, 効率的・効果的な運用